運転免許制度変更に伴うもの忘れ外来患者の現状調査

上野 節子¹⁾ 中村 桃子²⁾ 宮田さおり²⁾ 上田 恵子²⁾ 高尾 芳樹²⁾ 涌谷 陽介²⁾

要 約

2017年3月改正道路交通法が施行され、運転免許の更新時や交通違反時に医師の診断を要することになった。これを受けて倉敷平成病院認知症疾患医療センター（以後当センター）通院者の、運転免許保持者あるいは喪失者合計202名に対して現状調査のアンケートを実施した。その結果、保持者は108名、喪失者94名であり、運転免許保持者108名中、運転中ヒヤリとした経験の有無は、75歳以上と未満ではさほど差が無かった。運転免許返納の意思については男性では年齢にかかわらず返納意思無しが大多数であったが、女性では75歳以上で返納意思無し有りがほぼ同数であった。運転免許を返納したら困る事は、買い物・病院通い・趣味外出の制限・家族本人の負担増大が4大ポイントであった。一方、運転免許喪失者94名のうち、免許返納交換サービスである、おかやま愛カードと運転経歴証明書の発行は年齢を問わず約半数であった。また運転免許を喪失した時の気持ちは、今後の生活に不安はあるものの新しい生活を前向きに捉えるという回答が多かった。このようなデータを生かし、新しい道路交通法の施行に伴う高齢者ドライバーの運転免許更新時への当センターの指導内容に生かしていくことが求められる。

Key words 運転免許, 認知症, 物忘れ外来, 道路交通法, 認知症疾患医療センター

(日老医誌 2020; 57: 53-59)

緒 言

2017年3月改正道路交通法が施行され、運転免許更新時等に警察で行う簡易認知機能検査の結果、認知症の疑いありとなった75歳以上の高齢者は、公安委員会の指示により、認知症であるかの鑑別診断を受ける事を求められるようになった。このような社会的背景に基づき当センターを受診する患者が増えると予想されたため、このたび当センター通院者を対象としてアンケート調査を実施し、運転免許保持の有無や運転免許返納の意思、返納時の問題点と課題、免許返納交換サービスおかやま愛カード（www.pref.okayama.jp/page/detail-100743.html）、運転経歴証明書の受給、運転免許喪失と生活不

安等の実態について検討した。

方 法

2017年1月に福岡県で行われた第1回自動車運転に関する合同研究（js-safedrmd.jp/dl/info_04.pdf）に参加し、他センターとも意見交換し、その結果をもとに本調査用のアンケート用紙を作成した（図1, Q1-3）。2018年7月1日～10月12日の当センター通院者を対象として運転状況の実態と心理調査を実施した。対象者は、CDR0～1で、口頭説明にて同意を得ることができた通院者である。本研究は、倉敷平成病院倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号 H30-030）。

1) 倉敷平成病院医療秘書課

2) 倉敷平成病院認知症疾患医療センター

連絡責任者：上野節子 倉敷平成病院医療秘書課〔〒710-0826 倉敷市老松町 4-3-38〕

e-mail: hisyo3@heisei.or.jp

受付日：2019. 8. 3, 採用日：2019. 10. 5

doi: 10.3143/geriatrics.57.53

【ドライバーアンケート】

Q1. 現在通院されているご本人のことについておたずねします。

◇年齢：	☐ 75歳以下 ☐ 75歳以上
◇性別：	☐ 男性 ☐ 女性
◇普通自動車免許有無：	☐ 有 ☐ 無

Q2. Q1.で普通自動車免許有と回答された方におたずねします。

◇運転にヒヤリとした経験は？	☐ はい ☐ いいえ
◇免許を自主返納する予定がありますか？	☐ はい ☐ いいえ
◇もし、運転免許証を返納したら、困ることは？	☐ 買い物に行けない 5-4-3-2-1 ☐ 病院に行けない 5-4-3-2-1 ☐ 趣味の外出など活動の範囲が狭くなる 5-4-3-2-1 ☐ バスなどの公共交通機関がない 5-4-3-2-1 ☐ 自分など家族の負担が増える 5-4-3-2-1 ☐ 気力・判断能力が低下する 5-4-3-2-1 ☐ 特に不安なことはない 5-4-3-2-1
5；大いにあてはまる	
4；ややあてはまる	
3；どちらともいえない	
2；ややあてはまらない	
1；あてはまらない	

Q3. Q1.で普通自動車免許無と回答された方におたずねします。

◇自主返納された方に質問します。 どんなサービスを受けましたか？	☐ 岡山愛カードでの交通機関等の割引 ☐ 運転経歴証明書 (免許証の代わりに使える本人確認証明書)
◇運転免許が無くなった時どのように、感じましたか？	☐ これからの生活に不安を感じた 5-4-3-2-1 ☐ 苦痛を感じた 5-4-3-2-1 ☐ 生きていくことの喪失感を感じた 5-4-3-2-1 ☐ イライラした 5-4-3-2-1 ☐ 家族に迷惑をかけてしまうと感じた 5-4-3-2-1 ☐ 新しい生活を前向きにとらえた 5-4-3-2-1 ☐ 特に何も感じなかった。 5-4-3-2-1
5；大いにあてはまる	
4；ややあてはまる	
3；どちらともいえない	
2；ややあてはまらない	
1；あてはまらない	

ご協力ありがとうございました。

図1 当センター CDR0～1 の通院者 202 名に対しての運転免許に関するアンケート内容

表1 症例数 202 名の年齢別、性別の免許保持の有無の概要

検討した全症例			
	合計	男	女
人数	202	123	79
	100.0%	60.9%	39.1%
75 歳以上	127	88	39
うち免許有	53	42	11
うち免許無	74	46	28
75 歳未満	75	35	40
うち免許有	55	29	26
うち免許無	20	6	14

結果

調査期間中の当センター通院者のうちで本研究に同意して参加した患者人数は合計 202 名で、そのうち男性 60.9%、女性 39.1% であった (表 1)。調査対象者の年齢では 75 歳以上が 62.9%、75 歳未満が 37.1% と後期高齢者が多かったが、逆に免許保持率は 75 歳以上で 41.7%、75

歳未満で 73.3% と 75 歳未満の保持率が高かった (表 1)。この 202 名の年齢性別属性は、75 歳以上男性が最も多く 43.6% で、次いで 75 歳未満女性 19.8%、75 歳以上女性 19.3%、75 歳以下男性 17.3% とほぼ同率であった。一方この 202 名中の普通自動車免許有りは 108 名で、75 歳以上と未満がほぼ同数であった (表 1)。

次にアンケート実施全 202 名中の運転免許保持者 108 名の中で、運転中ヒヤリとした経験の有無については、年齢別・男女別でも約半数がヒヤリ経験ありと回答したが、75 歳未満男性ではヒヤリ経験ありの方が無しよりも多かった (図 2)。しかし免許返納意思の有無については、返納意思有りと回答が男性では年齢を問わず極めて少ないのに対して、女性では返納意思有りが多く、男女差が明らかとなった (図 3)。また 75 歳未満の男性で返納意思が極めて少ないのに対して、75 歳以上女性では返納意思が半数に迫るなど、年齢による返納意思の差も明らかとなった (図 3)。

続いて運転免許返納に伴う問題点や課題についての質問では、買い物や病院に行けない (買い物 73～85 人、

図2 アンケート実施全202名中の運転免許保持者108名中、運転中ヒヤリとした経験の有無について

図3 運転免許保持者108名の中で、運転免許返納意思の有無についての調査

病院75～86人), 趣味・外出活動が狭くなる(70～78人), 家族や自分の負担が増える(70～84人)等, 運転免許保持者108人のうち約70～80人の患者で返納に伴う問題点や課題が明らかとなった(図4)。

一方, 全202例中の運転免許を喪失した94名に対しての質問では, 自主返納をした際に支給されるおかやま愛カードや運転経歴証明書のサービスの保持率は, 性別ならびに75歳以上未満を問わず約半数に止まっていることが判明した(図5)。さらに運転免許を喪失した時の気持ちについて問うと, 生活への不安(18～33人),

苦痛(20～30人), 生きていく事の喪失感(7～15人), イライラ(9～17人), 家族に迷惑をかけると感じた(20～32人)等の喪失感や悲観的感情は比較的少なく(図6), むしろ新しい生活を前向きに捉えたとする肯定的感情が多く(図6), 図4での免許保持者における問題点とは対照的な結果が明らかとなった。

考 察

認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)では,

図4 運転免許保持者108名に、運転免許返納に伴う問題点や課題についての質問

全202例中の運転免許が無くなった94名中、「おかやま愛カード」保持の有無

全202例中の運転免許が無くなった94名中、運転経歴証明書保持の有無

図5 アンケート実施全202名中の運転免許を喪失した94名に対して免許返納時に受けられるサービスについての調査

高齢者の自動車運転について本人も家族も安全な生活を継続するために、運転免許更新時の認知機能検査や認知症鑑別診断に際しては、本人の尊厳を守りつつ認知機能や行動障害を評価し、運転中止勧告に当っては勧告後の生活の質を保証し適切な指導が重要であるとされている。本研究ではこのような社会的背景に基づき、当セン

ター通院者を対象としてアンケート調査を実施し、運転免許保持の有無や運転免許返納の意思、返納時の問題点と課題、免許返納交換サービスカードの受給、運転免許喪失と生活不安等の実態について検討したものである。

本研究により、運転免許保持者108名中の約半数がヒヤリ経験ありと回答したにも関わらず(図2)、免許返

図6 運転免許を喪失した94名に対して、免許喪失時の心理的要素を調査

納意思無しとの回答が男女とも年齢に関係なく多く、ヒヤリがあるものの返納意思は乏しい実態が明らかとなった(図3)。主治医はCDR0.5のごく軽度以外では運転継続が危険と判断していたが、認知症者ではCDR2の中等度レベル以上でも、自身の運転能力低下の自覚が乏しいことも明らかになっている¹⁾。自主返納はしたくないが、実際の運転状況においては事故のリスクが高い事が明らかである。またこの返納意思については男女差と年齢差も明らかとなった(図3)。このような積極的な自主返納が進まない理由としては、自主返納に伴う交換サービスを知らない場合や、そのまま更新切れになったりしたケースが多いことも判明した。

免許返納による問題点や課題点についてはして困る事として5段階評価を行ったところ、買い物・病院通い・趣味外出の制限・家族本人の負担増大が4大ポイントであった(図4)。いずれの項目も大いに困るとの回答が目立ち、免許喪失後の生活における不安がかなりの比率で高い事が分かる。従って本研究からは、運転免許保持者に対しては、喪失した後の公共交通のサービス向上や生活面・同居家族への負担軽減策の更なる充実が求められていることが判明した。運転免許保持高齢者を対象とした先行研究では、免許返納に対して本研究で得られたと同様の不安を持っている事が報告されている²⁾。

一方、既に運転免許を保持しない94名に対しての調査では、おかやま愛カードや運転経歴証明書の保持率が

どちらも約半数の割合に止まっており(図5)、おかやま愛カードと運転経歴証明書の周知や関心の低さが背景にあるものと推定される。実際に本調査時の聞き取りにおいても、自主返納に伴う交換サービスの存在そのものや、認知症検査で免許更新が不可となってしまった場合にそのまま更新せずに期限切れとなったケースが数多いことも明らかになった。

しかし同じく既に運転免許を保持しない94名での調査では、予想外に喪失感や悲観的感情が少なく、むしろ新しい生活を前向きに捉えたとする肯定的感情が多かった(図6)のは、自己の返納覚悟と交通事故への危惧等の自覚がある為と考えられ、また、車に頼らなくても良い環境が整っていることも考えられ、この点は免許保持者の喪失への不安や問題感情とは対照的な結果となっている点が今回新しく明らかにされた。

高齢者が関係する事故を防ぐ為には、高齢者の生活に対するケアが必要である。特に認知症患者の自動車運転免許は危険である。中国では70歳以上の高齢者に運転免許を許可しないなどの厳しい対策も取られている。一方で、米国では高齢者に対しても特に制限がなく、このような対処の相違は国民性や生活様式の違いが大きく関係しているものと考えられる³⁾。日本では、最近高齢者による悲惨な交通事故が多発して来ているため、自主返納をするケースも増加しては来ているが、返納後の生活に困っているとの回答が報告されており、返納後の生活

において公共交通の充実が重要な意味を持っている⁴⁾。また、岡山県で行われた調査では、免許返納に対する意識構造分析で、「地域利便性」から「運転しない生活」へ、「運転しない生活」から「返納者」への正のパスが通っていることも報告されている⁵⁾。公共交通網の発達した大都市と自動車運転が生活に不可欠となっている地方都市でも必要な対応策は地域的に異なるサービスが求められる。何らかの特典サービス、特に「移動コスト低減や目的地までの移送サービス等」の必要性が高いと考えられている⁶⁾。地方都市の三次市の事例では、2013年から運転免許自主返納支援事業（公共交通機関サービスのいずれか1つを選択する制度）が開始された。免許返納後の動機も、「支援制度があったから」とあり、事業の一貫が自主返納のインセンティブになっている。他方、家族による送迎も交通手段の重要な一つとなっている。子や孫と同居している同居家族の人数が多い場合は、返納後の交通手段に家族送迎を挙げている。それに対し、夫婦のみや独居等の同居家族の人数が減少すれば、返納後の交通手段は、公共交通機関に頼らざるを得ない環境が指摘されている。運転免許返納後の代替え交通手段の確保がいかに重要であるかが考えられている。また、家族による送迎でこれまでの生活に不安が解消される場合、運転免許返納の意思決定の向上に繋がっていると考えられる。更に、高齢運転者が多い地方部に対し、返納率が高いのは公共交通網が充実している都市部や、自主返納支援施策が推進されている県であるとも推察された⁷⁾。

また、優遇措置が認められている65歳以上の高齢者と異なり、認知症を理由に免許取消された65歳以下の若年性認知症患者による自主返納に対する優遇措置が認められていない点など年齢的な課題も残されている。

本研究はそのような将来的な解決課題に対して、地方都市の認知症疾患医療センターにおける運転免許に対する実態の一部を明らかにしたものである。今後は、岡山県における運転免許返納の実態を分析する為、地域や家族構成を分類し、更に市町村によって異なる支援事業の格差によって見えてくる問題を明らかにすることが必要である。そして、自主返納へ向ける支援体制が必要であることの重要性を明らかにすることが課題である。

著者のCOI (Conflict of Interest) 開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし

文献

- 1) 上村直人：認知症高齢者と自動車運転～2017.3.12から開始された新たな改正道路交通法と臨床現場への影響～、老年期認知症研究会誌 2017；3 (2)。
- 2) 元田良孝，宇佐美誠史，堀 沙恵：高齢者の運転評価と運転免許返納意識に関する研究。交通工学論文集 2017；3: B-1-B-5。
- 3) 高橋 智，呉 景龍：認知症患者を取り巻く社会環境と運転免許制度に関する国際調査。The 24th Annual Conference of the Japanese Society for Artificial Intelligence 2010。
- 4) 橋本成仁，山本和生：居住地特性から見る運転免許返納者の特性把握。公益社団法人日本都市計画学会 都市計画論文集 2011；46 (3)。
- 5) 山本和生，橋本成仁：免許返納を行うための要因と意識構造に関する研究。公益社団法人日本都市計画学会 都市計画論文集 2012；47 (3)。
- 6) 伊達 昇：運転免許自主返納ニーズと運転免許保有者特性の関連分析。交通工学論文集 2016；2: A59-A64。
- 7) 加藤博和：自動車運転免許返納政策に対する事業者・自治体の取り組み状況と課題。交通学研究 59。

Attitude survey among elderly outpatients in a hospital concerning driving after the implementation of a new road traffic act

Setsuko Ueno¹⁾, Momoko Nakamura²⁾, Saori Miyata²⁾, Keiko Ueda²⁾, Yoshiki Takao²⁾ and Yosuke Wakutani²⁾

Abstract

Following the passage of a new traffic law in March 2017, an inquiry survey was performed for 202 patients (men 60.9%, women 39.1%) in a medical center for neurocognitive disorders in Japan. Half of the 108 patients who currently had a driver's license had experienced traffic problems, including nearly crashing accidentally, in the past, but only a few of the men were willing to return their driver's license to the government, regardless of age (<75 and ≥75 years old). They mainly worried about how they would manage daily activities without a car, such as shopping for necessities, visiting the clinic, having the chance to get outside. They also worried about increasing the burden of other family members. In contrast, the other 94 patients who either did not have a driver's license or had already returned them to the government expected only slight issues due to the law, or even felt positive about losing their license. However, roughly half of those 94 patients did not get exchanging benefits (traffic discount card and license record card) on losing licenses probably due to less knowledge about such benefits. The present study revealed various aspects of elderly patients' thoughts concerning their driver's licenses in a local city of Japan.

Key words: Driver's license, Dementia, Dementia clinic, Road traffic act, Medical center for neurocognitive disorders (Nippon Ronen Igakkai Zasshi 2020; 57: 53–59)

1) Medical Secretary Department, Kurashiki Heisei Hospital

2) Medical Center for Neurocognitive Disorders, Kurashiki Heisei Hospital